

福島イノベーション・コースト構想 福島県の取組

平成29年11月27日

福 島 県



福島県復興シンボルキャラクター
「ふくしまからはじめよう。キビタン」



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

《概要》

- 福島イノベーション・コースト構想の推進のための中核的な機関として、**福島県において「一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構」を29年7月25日に設立。**
- 改正福島特措法に基づき**福島県が今後策定する**、同構想の取組を推進する区域とその取組の内容を定めた**「重点推進計画」において、本法人を構想推進の主要な実施主体として位置づけ**、構想の具体化を進める。
- 29年度は準備業務を実施、**30年度以降に本格業務を開始**する。

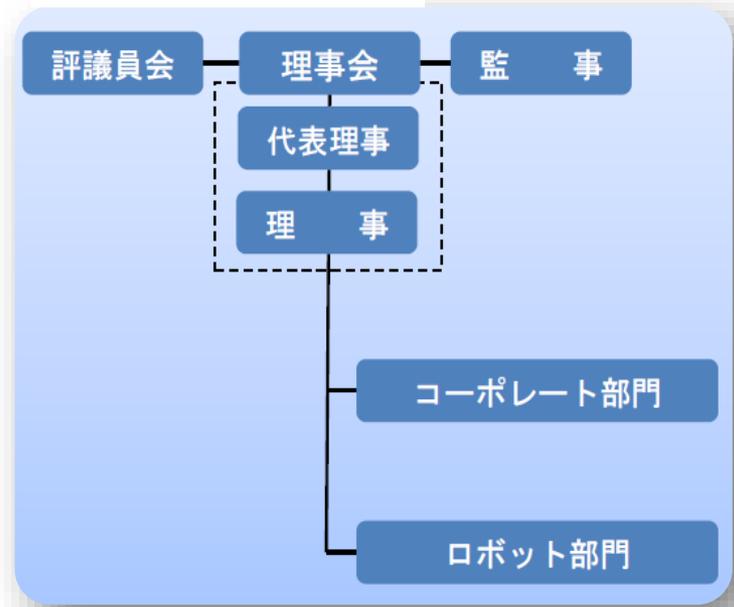
《機構の事業》

- (1) 構想の重点分野におけるプロジェクトの創出促進
- (2) 浜通り地域等に進出した企業等と地域との連携の促進
- (3) 産業集積に関する情報の収集、整理及び提供
- (4) 高等教育機関等による地域と連携した研究活動に関する支援
- (5) 教育機関等による構想を担う人材育成の支援
- (6) 拠点を活用した交流人口の拡大
- (7) 国内外への構想に関する情報の発信
- (8) 公の施設の管理運営
- (9) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

《役員体制》

- I) 理事・・・7名
鈴木 県副知事（代表） 他6名
- II) 評議員・・・7名
石井 県商工会議所連合会常任幹事 他6名
- III) 監事・・・1名
齋藤 東邦銀行執行役員営業本部副本部長兼法人営業部長

《組織体制図》



《設立者》

福島県 出捐金 300万円

(1) 拠点の整備及び研究開発の推進

- ・浜通り地域等では、各種プロジェクトに係る研究開発等の取組を推進
- ・本構想を推進するため、各拠点を着実に整備し、環境づくりを推し進めることが重要

(2) 産業集積の促進及び未来を担う教育・人材育成

- ・まずは既存産業の復興・再生を着実に推進
- ・その上で、地域特性を生かした産業の集積を進めることが必要
- ・さらに、本構想や地域再生を担う人材の育成が必要

(3) 生活環境の整備促進に早急に取り組む必要

- ・本構想の進展により、2020年までには各拠点施設を整備
- ・浜通り地域等において、拠点従事者やその家族、来訪者等の利便性の確保に向け早急な取組が必要

(4) 来訪者の増進による地域への交流人口の拡大

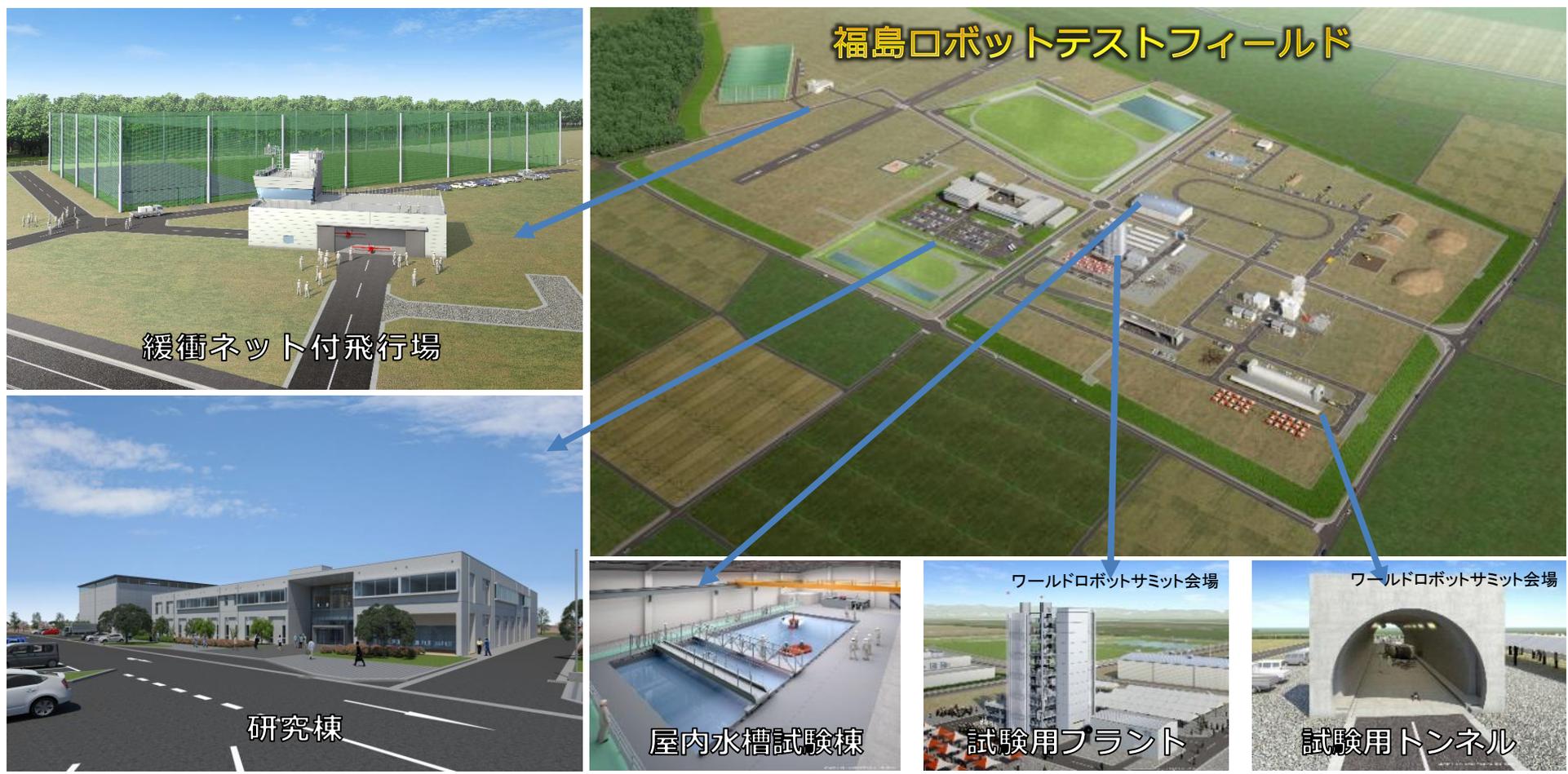
- ・本構想の目的は、拠点の強みを最大限に生かし、地域経済の活性化を推進すること
- ・拠点を活用したイベント等の実施など、継続的な交流人口を拡大する取組を進める必要

(5) 多様な主体による地域連携の強化

- ・本構想の実現のためには、幅広い分野にわたる継続的な取組が重要
- ・国、県、市町村、関係機関、企業などとの幅広い連携が不可欠
- ・多様な主体が連携できる環境づくり、協議等を進めていく仕組みを構築する必要

○陸・海・空のロボット・ドローンの研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行える、世界に類を見ない拠点である「**福島ロボットテストフィールド**」を、**南相馬市及び浪江町に整備**

開所予定時期：平成30年度から順次開所予定



平成32年8月 福島ロボットテストフィールドにて、ワールドロボットサミットの一部競技開催決定！

- 地元ユーザーと地元企業、域外の企業との連携を促進し、浜通り地域等での研究開発や技術実証を進めていくため、**ビジネス交流会や技術開発の展示など、企業間のマッチング**を実施
- ロボットやエネルギー等の重点分野で、**地元企業と大学等による共同研究等を通じた地域復興に資する実用化開発**を着実に推進
- ロボット技術や環境制御システムなどの開発・実証及び研究拠点の整備等を進め、これらの先端技術等を活用した先進的な農林水産業を全国に先駆けて実践し、**プロセスイノベーションを通じた浜通り地域等における農林水産業の復興・再生**を推進



- 構想を担う人材の裾野を広げるため、広く義務教育段階から**先端技術体験等の理数教育、グローバル教育、キャリア教育**を実施
- 再生可能エネルギー、ロボット、農林水産等のプロジェクトを牽引するトップリーダーや即戦力となる人材を育成するため、**小高産業技術高校など浜通り地域等の高等学校**において、**企業や大学、研究機関等と連携し、先進的かつ特色ある教育プログラムを実施**
- 構想を担う高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築することが不可欠であることから、**浜通り地域等への「知の集積」に向けた取組や大学等の地域連携を推進**



「ハロー！ロボット教育プロジェクト」
(小学生のロボット体験授業) (楡葉町)

写真提供：楡葉町



南相馬市小高小学校における
ペッパーを活用したプログラミング学習

写真提供：南相馬市



浜通りの中学生を対象とした
英語コミュニケーション授業



県立小高産業技術高校における
ドローンを活用した実習



大学生による現地フィールド調査

- 避難指示対象12市町村においては、避難指示が解除され、**復興拠点の整備など、住民帰還に向けた生活環境を整備**
- **地域公共交通の確保**では、避難指示対象12市町村内や同地域と周辺中核都市等を結ぶ**広域的なバス路線を整備**
- **県立ふたば医療センター（仮称）による二次救急医療を整備**するとともに、医療機関、福祉・介護事業所等の再開等の支援や人材確保に向けた支援などにより、医療・介護提供体制の再構築を推進



- **2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会**は、浜通り地域等、そして**本県の復興しつつある姿を世界中に発信**できるまたとない機会
- 福島ロボットテストフィールド、情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設等の整備も進んでおり、**これら拠点の持つ機能を最大限に生かしながら、地域の観光資源とも一体となって交流人口拡大を図る取組**を推進

【企業の浜通り視察受入】（平成29年10月26日 東北経済連合会科学技術イノベーション委員会）



【学生の浜通り視察受入】



- 複合災害に見舞われた本県の記録や教訓、そして復興のあゆみを着実に進める過程を収集・保存・研究し、決して風化させることなく後世に引き継ぎ、国内外と共有することは、被災した福島県民の思い。**国とも強力に連携し、情報発信拠点（アーカイブ拠点）の整備**に向けた準備を進める
- 今後、**推進機構が、国、県、市町村、大学、商工団体、相双復興官民合同チーム、企業協議会等の関係者間の連携強化に向けた様々な取組**を展開

【情報発信、展示会等への出展（例）】



平成30年3月 (仮称)福島イノベーション・コースト構想推進フォーラム(予定)